

**ギリシャ語福音書
彩色共観表**

編集・佐藤 研

立教大学

序

1. 共観表上で、共観福音書の全共通語を一定のシステムを用いて色で染めるというアイデアは、元々W.R Farmer, *Synopticon. The verbal agreement between the Greek Texts of Matthew, Mark and Luke contextually exhibited*, Cambridge 1969 に触発されたものである。この本では、Neste-Aland 第 25 版の共観福音書テキストが組織的な方法で色づけられている。以下の「彩色共観表」は、この Farmer 本の原理を共観表フォーマットに移し替え、かつ全面的に改訂し、さらにそれにヨハネ福音書とトマス福音書の並行箇所を参照用に付加したものである。

2. 以下の共観表は、K. Aland, *Synopsis Quattuor Evangeliorum*, Stuttgart ¹⁵1996 に基づく。ヨハネ福音書の並行箇所を組み込む作業に際しては、A. Huck, *Synopse der drei ersten Evangelien mit Beigabe der johanneischen Parallelstellen, völlig neu bearbeitet von H. Greeven*, Tübingen (J.C.B. Mohr) ¹³1981 を参照した。

3. この彩色共観表の作成を手伝ってくれた方々に私の心からの感謝を表明したい。まず、**東よしみ、久保文彦、三宅真紀、山野貴彦、吉田忍**の各氏（五十音順）の援助は、彩色テキストを作り上げる際に極めて重要であった。また、**ドイツ聖書協会**（Deutsche Bibelgesellschaft）は、Nestle-Aland 第 27 版新約聖書と上記の K. Aland の共観表をもとにしたこの作業の成果を、聖書を学ぶ多くの人々の益となるために私のホームページで公表することを認めてくれた。なお、この彩色共観表は、文部科学省の科学研究費・特定領域研究「古典学の再構築」（1998-2002 年）の財政的援助のもとに作成されたものであることも特記しておきたい。

2004 年 9 月

2006 年 5 月（改訂）

佐藤 研

凡例

1. 原則

以下においては、K. Aland 版の四福音書共観表の全てのテキストが再現されているわけではない。選ばれているのは、共観福音書の比較に資するユニットだけである。それらのユニットは、全体としてマルコ福音書の並び方に従って配置されている。マルコ福音書の中に並行を持たず、マタイとルカにのみ共通のユニットは、主にルカの順序によって配置されている。若干の句は一度ならず現れるが、それは効果的な比較を可能にするためである。

2. 斜体ブラケット / / 中の斜体の数字

これは、Aland の共観表における元来のユニット番号を示す。ただしこのユニットは、*a, b, c* が付与されて2個あるいはそれ以上のユニットに再分割されている場合がある（例えば / 125a /, / 125b / など）。これは、共観表のユニットをより小さい意味次元で区切った方が見やすいと判断したためである。ユニットの英語のタイトルは、部分的には Aland の共観表から借用されたものであるが、多くの場合、日本語のタイトル同様、私の創作である。

3. 共観表の「網掛け」部分

3.1. マタイとマルコの2福音書の並行箇所が完全に同一である場合（ルカは不一致）、当該語は「明るい緑」(bright green) の網がかけられている。例えば

Mt	Mk	Lk
Mt3:4 Αὐτὸς δὲ ὁ Ἰωάννης εἶχεν τὸ	Mk1:6 καὶ ἦν ὁ Ἰωάννης	

3.2. マルコとルカの2福音書の並行箇所が完全に同一である場合（マタイは不一致）、当該語は「ローズ」(rose) の網がかけられている。例えば

Mt	Mk	Lk
	Mk1:4 ἐγένετο Ἰωάννης [ὁ] βαπτίζων	Lk3:2 ἐπὶ ἀρχιερέως Ἄννα καὶ Καϊάφα, ἐγένετο ῥῆμα θεοῦ ἐπὶ Ἰωάννην

3.3. マタイとルカの2福音書の並行箇所が完全に同一である場合(マルコは不一致)、当該語は「ゴールド」(gold)の網がかけられている。例えば

Mt	Mk	Lk
Mt3:11καὶ πυρί	Lk3:16καὶ πυρί	

3.4. マタイ、マルコ、ルカの3福音書の並行箇所が完全に同一である場合、当該語は「水色」(aqua blue)の網がかけられている。例えば

Mt	Mk	Lk
Mt3:11ἐν πνεύματι ἁγίῳ καὶ πυρί	Mk1:8ἐν πνεύματι ἁγίῳ.	Lk3:16ἐν πνεύματι ἁγίῳ καὶ πυρί

3.5. いくつかのユニットにおいては、3欄ではなく4欄になっている。これは、共観福音書の一つが同一の言葉ないしペリコペーを2度収録しているためである。したがって、これらのユニットにおいては、一つの福音書に対して「重複欄」、すなわち2欄を設けることになった(時にはユニットの或る部分のみが4欄になっている)。そのような場合は、付加的な記号を導入しなければならなかった。すなわち、或る言葉ないし表現がこれら4欄においてすべて同一の場合は、「水色」の網掛けに加え、囲み線で縁取ってある

Mt	Mk	Lk
Mt10:22a καὶ ἔσεσθε μισούμενοι ὑπὸ	Mt24:9b καὶ ἔσεσθε μισούμενοι ὑπὸ	Mk13:13a καὶ ἔσεσθε μισούμενοι ὑπὸ
		Lk21:17 καὶ ἔσεσθε μισούμενοι ὑπὸ

πάντων διὰ τὸ ὄνομά μου.	πάντων τῶν ἐθνῶν διὰ τὸ ὄνομά μου.	πάντων διὰ τὸ ὄνομά μου.	πάντων διὰ τὸ ὄνομά μου.
--------------------------------	--	--------------------------------	--------------------------------

3.6. もし、或る言葉ないし表現が、「重複欄」を含む3欄に現れる場合、すなわち、例えばルカが δένδρον σαπρόν という表現を1回、マタイが(その重複欄で)2回提示している時は、δένδρον σαπρόν という語は「ゴールド」の網掛け(=マタイ、ルカ共通語)に加え、同時に囲み線で縁取られている。

Mt	Mk	Lk
Mt7:18 ... οὐδὲ <u>δένδρον</u> <u>σαπρόν</u> καρπούς		Lk6:43οὐδὲ πάλιν <u>δένδρον</u> <u>σαπρόν</u> ποιοῦν....
Mt12:33aἢ ποιήσατε τὸ <u>δένδρον</u> <u>σαπρόν</u> καὶ τὸν		

4. 共観表での「アンダーライン」

4.1. マタイとマルコの2福音書の並行箇所語が、完全に同一ではないが同一の基本形または同一の語根に遡る場合(ルカは異なる)、「明るい緑」(bright green)の下線が引かれている。例えば

Mt	Mk	Lk
Mt3:1 <u>βαπτιστής</u>	Mk1:4 <u>βαπτίζων</u>	

4.2. マルコとルカの2福音書の並行箇所語が、完全に同一ではないが同一の基本形または同一の語根に遡る場合(マタイは異なる)、「ローズ」(rose)の下線が引かれている。例えば

Mt	Mk	Lk
-----------	-----------	-----------

Mk1:21καὶ εὐθὺς τοῖς
σάββασιν εἰσελθὼν εἰς τὴν
 συναγωγὴν ἐδίδασκεν.

Lk4:31καὶ ἦν διδάσκων
 αὐτοὺς ἐν τοῖς σάββασιν.

4.3. マタイとルカの 2 福音書の並行箇所語が、完全に同一ではないが同一の基本形または同一の語根に遡る場合（マルコは異なる）、「ゴールド」(gold) の下線が引かれる。例えば

Mt
Mt5:12 χαίρετε ὅτι ὁ μισθὸς
ὑμῶν πολλὸς ἐν τοῖς οὐρανοῖς.....

Mk

Lk
Lk6:23 γάρητε ἰδοὺ γὰρ ὁ
μισθὸς ὑμῶν πολλὸς ἐν τῷ
οὐρανῷ.....

4.4. マタイとマルコとルカの 3 福音書の並行箇所語が、完全に同一ではないが同一の基本形または同一の語根に遡る場合、「青」(blue) の二重下線が引かれる（網掛けの色であった「明るい水色」[aqua blue] の下線を使わなかったのは、単にコンピューターのモニターで見やすくするためである。また青の二重下線は、モニターによっては、解像度の関係で青の単線のように見えることもあり得ることを注記する）。例えば

Mt
Mt3:1 παραγίνεται Ἰωάννης ὁ
βαπτιστῆς

Mk
Mk1:4 ἐγένετο Ἰωάννης [ὁ]
βαπτίζων

Lk
Lk3:2 ἐγένετο ῥῆμα θεοῦ ἐπὶ
Ἰωάννην

4.5. なお、「下線」においても網掛けと同一の状況が生じうる（上記 3.5.と 3.6.参照）。一つのユニットに 3 欄ではなく 4 欄ある時 共観福音書の一つが同一の言葉ないしペリコペーを二つの箇所において再現している場合、付加的下線が必要とならざるを得ない。すなわち、或る語が 4 欄すべてにおいて発生するが全く同一形ではなく、しかしながら語根ないしは基本形が同一の場合、その語は「青」(blue) の二重波下線が引かれる。以下の例の語 λυχνία-を参照されたい。

Mt

Mk

Lk

Mt5:15 <u>ἀλλ'</u> <u>ἐπὶ</u> <u>τὴν λυχρίαν</u>	Mk4:21οὐχ ἵνα <u>ἐπὶ</u> <u>τὴν λυχρίαν</u> τεθῆ.....	Lk8:16 <u>ἀλλ'</u> <u>ἐπὶ</u> <u>λυχρίας</u> τίθησιν	Lk11:33 <u>ἀλλ'</u> <u>ἐπὶ</u> <u>τὴν λυχρίαν</u>
--	---	--	---

4.6. 同一の原則は、「明るい緑」「ローズ」「ゴールド」の色の波下線にも妥当する。これらはすべて、4欄の内の3欄(重複欄を含む)に語根ないしは基本形が同一の語が現れる場合である。例えば

Mt		Mk	Lk
Mt5:30 <u>ἔκκοψον</u> <u>αὐτὴν</u>	Mt18:8 <u>ἔκκοψον</u> <u>αὐτὸν</u>	Mk9:43 <u>ἀπόκοψον</u> <u>αὐτήν</u> .	

ここではMt5:30とMk9:43の αὐτήν の語にも緑の波下線が引かれているが、網掛けと同じ色のため見えないものと見なして頂きたい。

5. 語間のスペース

語間のスペースが同じく網かけを施されているか、下線が施されているときは、網掛けないしは下線を施されている複数の語が、当該の福音書において共通して連続していることを示す。例えば

Mt3:1 παραγίνεται Ἰωάννης ὁ βαπτιστὴς κηρύσσων ἐν τῇ ἐρήμῳ τῆς Ἰουδαίας
Mk1:4 ἐγένετο Ἰωάννης [ὁ] βαπτίζων ἐν τῇ ἐρήμῳ
Lk3:2 ἐγένετο ῥῆμα θεοῦ ἐπὶ Ἰωάννην υἱὸν ἐν τῇ ἐρήμῳ.

6. [] 内の語

Nestle-Aland 27 版の新約聖書テキストにおいて、[] 内に入れられている語は元来のテキストに存在したか否か、校訂者が未決定であることを意味する。これらの部分は、この共観表では元のテキストに属するものとして扱われている。例えば

Mt3:1 Ἰωάννης ὁ βαπτιστῆς

Mk1:4 Ἰωάννης [ὁ] βαπτίζων

7. ----- の記号と斜体文字の節番号

同じユニットの中でも、比較をより鮮明にするために、節の順序が時々若干変っていることがある。そのような場合、----- の記号が置かれ、それ以後の節の位置が置き換えられていることを示唆している。もっとも、置き換えられた節は、元来の節順でもう一度現れることもあり得る。そのような場合は、節名のみが斜体文字で表される。例えば下の例の Mt12:41 と Lk11:32 を参照

No. 99 [191b]. Jona and the Queen of the South / ヨナと南の女王

Mk 12:41-42

Mt12:41 ἄνδρες Νινευῖται ἀναστήσονται
ἐν τῇ κρίσει μετὰ τῆς γενεᾶς ταύτης
καὶ κατακρινοῦσιν αὐτήν,
ὅτι μετενόησαν εἰς τὸ κήρυγμα Ἰωνᾶ,
καὶ ἰδοὺ πλεῖον Ἰωνᾶ ὧδε.

Mt12:42 βασίλισσα νότου ἐγερθήσεται ἐν τῇ
κρίσει μετὰ τῆς γενεᾶς ταύτης καὶ
κατακρινεῖ αὐτήν, ὅτι ἦλθεν ἐκ
τῶν περάτων τῆς γῆς ἀκοῦσαι
τὴν σοφίαν Σολομῶνος,
καὶ ἰδοὺ πλεῖον Σολομῶνος ὧδε.

Mt12:41 ἄνδρες Νινευῖται ἀναστήσονται
ἐν τῇ κρίσει μετὰ τῆς γενεᾶς ταύτης
καὶ κατακρινοῦσιν αὐτήν,
ὅτι μετενόησαν εἰς τὸ κήρυγμα Ἰωνᾶ,
καὶ ἰδοὺ πλεῖον Ἰωνᾶ ὧδε.

Mk

Lk 11:31-32

Lk11:32 ἄνδρες Νινευῖται ἀναστήσονται
ἐν τῇ κρίσει μετὰ τῆς γενεᾶς ταύτης
καὶ κατακρινοῦσιν αὐτήν·
ὅτι μετενόησαν εἰς τὸ κήρυγμα Ἰωνᾶ,
καὶ ἰδοὺ πλεῖον Ἰωνᾶ ὧδε.

Lk11:31 βασίλισσα νότου ἐγερθήσεται ἐν τῇ
κρίσει μετὰ τῶν ἀνδρῶν τῆς γενεᾶς ταύτης καὶ
κατακρινεῖ αὐτούς, ὅτι ἦλθεν ἐκ
τῶν περάτων τῆς γῆς ἀκοῦσαι
τὴν σοφίαν Σολομῶνος,
καὶ ἰδοὺ πλεῖον Σολομῶνος ὧδε.

Lk11:32 ἄνδρες Νινευῖται ἀναστήσονται
ἐν τῇ κρίσει μετὰ τῆς γενεᾶς ταύτης
καὶ κατακρινοῦσιν αὐτήν·
ὅτι μετενόησαν εἰς τὸ κήρυγμα Ἰωνᾶ,
καὶ ἰδοὺ πλεῖον Ἰωνᾶ ὧδε.

8. 節番号と節の本文の双方が斜体文字のテキスト

ある節が、比較参考のために、当該のユニット以外の共観福音書の箇所から採られた場合、章節を示す部分のみならず、その節の本文自体も斜体文字で表される。例えば、以下のマタイ 11:7-15 / ルカ 7:24-30 のユニット中に表示されたマルコ 1:2 がそれにあたる

Mt11:7-15	Mk	Lk7:24-30
Mt11:7		Lk7:24
Mt11:9 ἀλλὰ τί ἐξήλθατε ἰδεῖν; προφήτην; ναὶ λέγω ὑμῖν, καὶ περισσότερον <u>προφήτου</u> .		Lk7:26 ἀλλὰ τί ἐξήλθατε ἰδεῖν; προφήτην; ναὶ λέγω ὑμῖν, καὶ ἰ περισσότερον <u>προφήτου</u> .
Mt11:10 οὗτός ἐστιν περὶ οὗ <u>γέγραπται</u> ,	<i>Mk1:2 Καθὼς <u>γέγραπται</u> ἐν τῷ Ἡσαΐα τῷ <u>προφήτῃ</u>.</i>	Lk7:27 οὗτός ἐστιν περὶ οὗ ^τ <u>γέγραπται</u> ,
Ἴδοὺ ἐγὼ <u>ἀποστέλλω τὸν</u> <u>ἄγγελόν μου πρὸ προσώπου</u> <u>σου,</u> <u>ὃς κατασκευάσει τὴν ὁδὸν σου</u> <u>ἔμπροσθέν σου.</u>	Ἴδοὺ <u>ἀποστέλλω τὸν</u> <u>ἄγγελόν μου πρὸ προσώπου</u> <u>σου,</u> <u>ὃς κατασκευάσει τὴν ὁδὸν σου</u>	Ἴδοὺ <u>ἀποστέλλω τὸν</u> <u>ἄγγελόν μου πρὸ προσώπου</u> <u>σου,</u> <u>ὃς κατασκευάσει τὴν ὁδὸν σου</u> <u>ἔμπροσθέν σου.</u>
Mt11:11 ἀμὴν <u>λέγω ὑμῖν</u> οὐκ ἐγήγερται ἐν γεννητοῖς <u>γυναικῶν μείζων Ἰωάννου</u> τοῦ βαπτιστοῦ <u>ὃ δὲ μικρότερος ἐν τῇ βασιλείᾳ</u> <u>τῶν οὐρανῶν μείζων αὐτοῦ</u> <u>ἐστιν.</u>		Lk7:28 <u>λέγω ὑμῖν,</u> <u>μείζων ἐν γεννητοῖς γυναικῶν</u> <u>Ἰωάννου οὐδεὶς ἐστιν</u> <u>ὃ δὲ μικρότερος ἐν τῇ βασιλείᾳ</u> <u>τοῦ θεοῦ μείζων αὐτοῦ</u> <u>ἐστιν.</u>

9. ヨハネ福音書（例外的にその他も）のテキスト

参考のために、関連するヨハネ福音書（Jh）のテキストが「テキストボックス」の中に収められ、表示されている(例外的に使徒行伝その他)。その際、ヨハネ福音書の中の重要な語が赤（red）文字で表示されているが、これらの赤フォントは共観福音書との精確な並行

を指摘するものではない。共観福音書のテキストとの有意義な相似性を示唆するに留まる。
例えば

Mt	Mk	Lk
Mt1:1 Βίβλος γενέσεως Ἰησοῦ Χριστοῦ υἱοῦ Δαυὶδ υἱοῦ Ἀβραάμ.	Mk1:1 Ἀρχὴ τοῦ εὐαγγελίου Ἰησοῦ Χριστοῦ [υἱοῦ] θεοῦ].	Lk1:2 καθὼς παρέδοσαν ἡμῖν οἱ ἀπ' ἀρχῆς αὐτόπται καὶ
Jh1:1 Ἐν ἀρχῇ ἦν ὁ λόγος, καὶ ὁ λόγος ἦν πρὸς τὸν θεόν, καὶ θεὸς ἦν ὁ λόγος. Jh1:2 οὗτος ἦν ἐν ἀρχῇ πρὸς τὸν θεόν.		

10. トマス福音書のテキスト

同様に「テキストボックス」に入れられたトマス福音書 (Th) のギリシャ語版テキスト (コプト語からギリシャ語に研究のために訳されたもの) は、Aland の共観表 pp. 519-546 から採用されたものである (ギリシャ語訳テキストが Aland の共観表に存在していない場合は、同福音書にある英訳を載せておいた)。オクシリンコス・パピルス断片 (POxy ; トマス福音書の古ギリシャ語版の一部) が Aland の共観表に引用されている時は、ギリシャ語訳と共に表示しておいた。トマス福音書中、赤フォントで現れる語は、ヨハネ福音書の場合と同じく、共観福音書中のテキストとの有意義な類似性を示唆するものである。

11. 検索の容易さ

各々の節の表示は、省略法を用いていない (すなわち、節ごとに Mt, Mt, Lk + 章数 : 節数で示してある)。これは、PDF 文書となった本共観表の中での「検索」を容易にするためである。例えば、ルカ福音書 7 章 23 節の共観福音書内並行テキストを得ようとするなら、アクロバットプログラムの検索の欄に **Lk7:23** とタイプして入力キーを押せば、その箇所へジャンプすることができる。